

熱戦でわく かんらプロレスフェスタ

「かんらプロレスフェスタ」が9月28日、甘楽中体育館で開催されました。元地域おこし協力隊の妻木さんが中心となって企画し、今年で3回目を迎えました。

妻木さんは任期終了後も町に残り、農業を営みながらプロレスを通じて地域を盛り上げたいと、このイベントを継続して開催しています。

当日は選手たちが白熱の試合を繰り広げ、観客は一体となって声援を送りました。



次回の開催に向けて、気持ちをひとつに拳を掲げる森平町長(中央)と山崎商工会長(中央左)と選手の皆さん



手づくりうちわで声援を届けたFUMA選手のご近所の皆さん

FUMA選手のご近所の皆さんはうちわを手に熱心に声援を送り「毎年楽しみにしている。迫力のある試合に元気をもらえる」といった声も聞かれ、地域に根付いた恒例行事としての盛り上がりを見せました。



技を決めるFUMA選手

りんご狩りを体験 にこにこキッズかんら

子育て支援センター「にこにこキッズかんら」は、主に乳幼児を持つ親子が気軽に集い交流できる場所として多くの皆さんが利用しており、さまざまなイベントを行っています。

10月4日には、総勢80人(27組)が井田りんご園(小幡)へ「アップルピクニック」と題したりんご狩りに出掛けました。



あいにくの雨まじりの天気でしたが、りんご狩りと宝探しゲームを楽しんだ後、ピクニックタイムに配る予定だったアップルジャムサンドを持ち帰りました。雨にも負けない笑顔があふれるにぎやかな1日となりました。

古館さんの100歳を慶祝

古館けさよさん(大正14年10月1日生まれ・天引)が100歳の誕生日を迎えられ、10月1日に森平町長が町内の介護施設を訪問し、慶祝状と祝金を手渡しました。

古館さんは富岡市額部の生まれで、天引に嫁いだ後は米や野菜などを作りながら、3人のお子さんに恵まれました。

長寿の秘訣は「好き嫌いせず、適度に畑仕事をする事」。入所する前は畑仕事に励み、趣味のゲートボールも楽しんでいました。訪問当日は飾りつけされた会場で施設職員が用意した誕生日ケーキを手に写真を撮り、森平町長からのお祝いの言葉を受け、笑顔を見せました。



工夫光る農園づくり ふるさと農園収穫感謝祭

甘楽ふるさと農園(上野)の収穫感謝祭が10月19日に開かれ、同農園管理組合(吉田恭一組合長)主催の「農園づくりコンテスト」の表彰式や有機栽培サツマイモの収穫体験が行われました。

表彰は、栽培管理状況の良さや工夫を凝らした農園を作った18人が各賞を受賞しました。

主な受賞者 (敬称略)

最優秀賞	久場良弘(東京都北区)
町長賞	加来昭明(東京都北区)
農業委員長賞	高橋勝男(造石)



旅するチョウ アサギマダラ舞う

旅するチョウとして知られるアサギマダラを呼び寄せようと、秋畑来波地区の飯塚康廣さん、飯塚篤さん、飯塚悟さんが力を合わせ、3年前から自宅裏の段々畑跡を整備して花畑をつくりました。種から育てたヒヨドリバナやフジバカマを約2千株植え、9月下旬からは薄青いあさぎ色の羽に黒い模様を持つアサギマダラが舞い、蜜を集める姿が見られるようになりました。

草取りや水やり、雨で花が倒れたときの手入れに苦労しながらも「一生懸命作ったからこそ多くの人に見てもらいたい」と3人は語ります。来年は規模を2倍に広げる計画で「訪れた人に秋の里山に舞うアサギマダラを楽しんでもらえれば」と願っています。

▶花畑で羽を休めるアサギマダラ



◀花畑を整備した(左から)飯塚篤さん、康廣さん、悟さん

デフリンピックを知ろう キャラバンカーが来庁

2025年東京で開催される「デフリンピック(きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック)」を広く知ってもらうために全国を巡回しているキャラバンカーが9月30日、役場を訪れました。



東京2025デフリンピック大会は、デフリンピックが開催されてから100周年の記念大会であり、初めて日本で開催される大会です。

役場前では、町長をはじめ町議会議員の皆さんや町職員がキャラバンカーを迎え、記念撮影を行いました。車体には大会ロゴや選手の姿が描かれており、大会の魅力を全国に発信しています。

大会は11月15日から26日まで開催され、期間中は陸上・水泳・バスケットボールなど21の競技で競い合います。

INFOM 会長らが来町 森林セラピーを実施

森林セラピーの普及と森林・自然の持つ予防医学効果の研究を進める国際的な組織「INFOM(国際自然・森林医学会)日本支部」の今井通子会長が10月1日、海外の医師を伴って小幡八幡宮を訪れました。

あいにくの天気となりましたが血圧や脈拍を測定し、軽いストレッチで体をほぐしたあと八幡山のセラピーロードへ。しっとりと濡れた森林を歩きながら、雨音や木々の香り、足元の感触など、五感で自然の癒し効果を感じとっていました。

今井さんは「八幡山のセラピーロードは、気軽に森林の魅力を体験できるのが特徴です。アクセスの良さや、緩やかに登るジグザグの道で変化に富んだ森林を味わえる点も魅力です」と話しました。



アジア大会で銅メダル 林さん

第23回アジアジュニア&アンダー21空手道選手権大会が、9月5日から7日まで中国・広州市で開催されました。14~20歳の世代の頂点を決める国際大会に、日本強化選手団の一員として出場した林心優さん(甘楽中3年)が、女子組手61kg級で見事銅メダルを獲得しました。

林さんは「2回戦で負けてしまい一度は終わりだと思ったが、敗者復活戦に出られるチャンスを得て、必ず銅メダルを取ると気持ちを切り替えた。初めに技を取られたが焦らずに取り返そうと決め、相手にプレッシャーをかけたことで勝利できた」と振り返ります。

町長は「楽しんで挑んでほしい。ここまでの努力を生かしてさらに活躍してもらいたい」と今後の飛躍に期待を寄せました。



北区とサッカー交流

友好都市東京都北区との少年サッカー交流が10月4日、甘楽ふれあいの丘陵上競技場で行われました。

甘楽町からは町内の小学生を中心とした少年サッカーチームジョイナス Jr FC(大河原和男代表・青木大和キャプテン)と吉井ジュニアパルス、安中FC TAITOの3チーム、北区からは北区トレセンA・B・Cの3チームが参加し対戦しました。

約80人の小学生が熱戦を繰り広げ、スポーツを通じて友情やチームワークの大切さを学ぶ機会になりました。



記念品を交換し笑顔で交流する選手たち

ポチッとくんが来た！

かんら保育園

かんら保育園では10月6日に群馬テレビの「ポチッとくん体操」の番組収録が行われ、2～5歳の園児91人が出演しました。

元気いっぱい子どもたちは、カメラの前で音楽に合わせて体を動かし、笑顔で体操を披露しました。この日は、ポチッとくんやかんらちゃんなどのキャラクターも応援に駆けつけ収録を盛り上げました。

収録の様子は、11月10日から2週間にわたり放送されます。



キャラクターと一緒に体操を披露する園児たち

天引で伝統の**ばく**麦祭り

諏訪神社(天引)の「麦祭り」が10月19日に行われました。

この祭りは、全国的にも珍しい麦飯を使った神事で、もみ殻をむいた大麦に小豆を混ぜて蒸した**ばく**麦(強飯)を作り食すると、五穀豊穡や家内安全、無病息災に恵まれると伝えられており、町と県の重要無形民俗文化財に指定されている伝統行事です。

境内では、同じく町の重要無形民俗文化財に指定されている獅子舞と神楽舞が奉納され、訪れた人たちが伝統の祭りを楽しみました。



太鼓と笛の音に合わせて奉納された神楽舞

霧につつまれた蕎麦の花

蕎麦づくり入門「花祭り」が10月12日、秋畑那須地区のちいじがき蕎麦の里で開かれ、オーナーなど約100人が白いかれんな花を楽しみました。

今年はいにくの雨で「那須の獅子舞」の演舞は中止となりましたが、中野新太郎さんのミニコンサートが行われ、霧に包まれた会場に澄んだ歌声が響きました。また、日曜朝市会の協力のもと、地元の新鮮野菜や豚汁、フランクフルトなどの販売が行われ、参加者は花を眺めたり温かい料理を味わったりと思い思いに過ごしました。



会場では地元野菜や豚汁の販売もにぎわいました

雲間にのぞく中秋の名月

「第14回御殿のお月見会」が10月6日、国指定名勝楽山園で開催されました。

御殿前通りの「宵待ち縁日」では、昨年に引き続き輪投げなど子ども向けのゲームが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。園内に進むと箏や琵琶、篠笛の演奏が流れる中、訪れた人は空を見上げながら月の登場を待ちました。スマートフォンを構える人やカメラを三脚に据えて待機する人の姿も見られました。

この日は途中から月が雲に隠れてしまいましたが、時折顔をのぞかせると、来場者はその瞬間を逃すまいと写真に収めていました。

「御殿のお月見会」



雲の合間からのぞいた月明かりに照らされた楽山園



数量限定、凌雲亭のお抹茶席



琵琶の演奏に耳を傾ける来場者



輪投げやお菓子釣りも大人気

福祉メッセージを伝達

知的障がい者への理解を深め福祉の向上を呼びかける「福祉メッセージ」の伝達式が9月25日に役場で行われました。

地域活動支援センターあゆみ(小幡)の保護者を代表し坂本恵子さん(金井)と利用者を代表し加藤美智江さん(善慶寺)が、それぞれメッセージを読み上げ町長らに手渡しました。

坂本さんは「障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が社会の一員として尊重され、共に生きる共生社会を実現していきたい」と呼びかけました。



(左から)近藤教育長、森平町長、金田議長にメッセージを朗読する坂本さん(右)

くらしの会

環境美化活動

町くらしの会(櫻井光江会長)が10月14日、役場周辺で清掃活動を行いました。参加した12人は、ペットボトルや空き缶などを丁寧に拾い集め、通りや歩道がすっきりときれいになりました。



清掃を終えたくらしの会の皆さん

礼を重んじ友情を育む 合同稽古会

甘楽町と東京都北区の剣道交流稽古会が9月28日、旧甘楽第二中学校体育館で昨年に引き続き行われ、東京都北区剣道連盟(九万田 勉会長)から20人、群馬県剣道連盟甘楽富岡支部(内藤郁芳支部長・白倉)からは11人が参加しました。

世代や所属を超えて互いに礼を尽くし、緊張感のある雰囲気の中、真剣に竹刀を交わしました。



熱気あふれる稽古を終え、交流を重ねた剣士たち

100回目の敬老会 金井地区

金井地区敬老会が10月19日、金井研修センターで開催され、約110人が出席しました。

節目となる第100回の開催を祝い、会場はいつにも増して華やかな雰囲気に包まれました。開会にあたっては、地区役員や来賓から長年地域を支えてきた皆さんへの感謝とお祝いの言葉が贈られました。

余興の時間には南京玉すだれやハーモニカ・マンドリン演奏、踊りなどが披露され、会場は笑いと拍手に包まれました。

▼第2回開催当時の記念写真



RUN伴ぐんま2025 認知症への理解広げる

「RUN伴(らんととも)ぐんま2025」の一行が10月17日、特別養護老人ホームシルクとにこにこ甘楽を訪れました。「RUN伴」は認知症の人やその家族、医療・福祉関係者、地域住民などがたすきをつなぐ全国的なイベントで、認知症への理解を広げる活動です。

にこにこ甘楽では、デイサービスの利用者や町のオレンジサポーターらが笑顔で出迎え、たすきを次へとつなぎました。



たすきをつなぎながら到着した一行



オレンジサポーターの皆さんは「町の活動が全国とつながっているということを感じました。認知症になっても安心して暮らせる町づくりを、地域でこれからも続けていきたい」と話しました。